

## 四国四県町村長・議長大会の開催

9月26日（火）高知県高知市のザ クラウンパレス新阪急高知において、「四国四県町村長・議長大会」を開催いたしました。

この大会は、四国の町村長・議長が一堂に会し、町村の抱える重要課題について決議するとともに、決議の実現のためお互いに連携を密にしながら行動し、多様で個性豊かな町村自治の振興と住民福祉の向上を期することを目的としています。

大会での決議内容は以下のとおり。

### ○決議事項

- ・ 地方財政の充実・強化を図り、地方創生を推進すること
- ・ 南海トラフ地震対策等、防災・減災対策の充実強化を図ること
- ・ 四国地方の交通基盤等を整備促進すること
- ・ 農林水産業の振興対策及び地域の活力創造を積極的に推進すること

### ○参議院選挙の合区の見直しに関する特別決議（別紙）

### ○「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する共同アピール（別紙）



提出議題を説明する古川副会長

決議・特別決議を朗読する後藤会長



## 参議院選挙の合区の見直しに関する特別決議(案)

第24回参議院議員通常選挙は、憲政史上初めて合区で行われたが、地方の自立・活性化を図るために必要な、地方の意見を国政に反映させる機会と権利を失わせる結果となった。

とくに、投票率が全国的に横ばいの中、合区とされた「徳島県及び高知県」選挙区では両県とも全国で最も低いレベルの投票率となり、人口減少などから危機に瀕した地方の民意を国政に反映させるうえで、深刻な課題を残したと言わざるを得ない。

今回の選挙において、両県民の投票意欲を喪失させた主因は、「一票の格差」の是正のみを目指し、選挙区として都道府県単位で果たしてきた役割を無視した小手先の弥縫策として実施された「合区」の導入にあり、今後、「合区」の継続と拡大は、都市住民の意向が尊重される一方、地方住民の参政意欲を失わせることにつながりかねず、ひいては我が国の民主主義の根幹を揺るがす事態に陥るものである。

今一度、国会においては、我が国の民主主義における選挙区としての都道府県が果たしてきた役割を尊重した参議院選挙制度改革の議論を興し、参議院の選挙制度を地方の意見も国政に反映される仕組みとすべきである。

については、広範な国民世論を背景として、合区による選挙制度を見直し、法律のみならず憲法の改正も視野に入れて、都道府県単位による代表が国政に参加する仕組みを構築されるよう強く要望する。

以上、決議する。

平成29年9月26日

四国四県町村長・議長大会

## 「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する 共同アピール(案)

「四国遍路」は、徳島・高知・愛媛・香川の4県をつなぐ空海ゆかりの八十八箇所霊場をループ状に巡る全長1,400kmの壮大な寺院巡礼である。

この巡礼は、古くから一般庶民に定着し、それを地域社会が「お接待」と呼ばれるおもてなしの心で支えている。

遍路の基となる「思想・信仰」、実践する「場」、さらにそれを支える地域の「お接待」の3者が一体となった「遍路文化」は、空海が四国霊場を開創したとされる西暦815年から、1200年余の長きにわたり脈々と受け継がれてきた。

こうした「遍路文化」に象徴される「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、日本国内、さらには世界的に見ても、普遍的価値のあるもので、人類全体の遺産として次代に引き継いでいくべきものであり、まさに、世界文化遺産にふさわしいものとする。

平成19年12月に四国4県と関係市町村が共同で再提案した「四国八十八箇所霊場と遍路道」については、世界遺産暫定一覧表への記載は見送られたものの、「生きている伝統」を表す資産としての価値は高く評価されている。

これを受けて、平成22年3月には、四国の産官学民が一体となった「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会が設立され、国から示された課題の解決に向けた取組みを進め、平成28年8月には、文化庁に対して構成資産の保護措置や普遍的価値の証明などを盛り込んだ提案書が再提出されている。

このため、国に対しては、「四国八十八箇所霊場と遍路道」を長大なエリアに及ぶ生きた文化遺産として、この文化遺産が効果的に保存・承継できるよう、世界遺産候補暫定一覧表へ早期に追加記載することを強く求めるものである。

今後、我々は、関係者との連携を強化し、一層の機運の醸成に積極的に取り組むとともに、すべての人を温かく受け入れてきた「四国遍路」の素晴らしさを幅広く周知するなど、世界遺産登録に向け、四国が一体となって取り組むことを強くアピールする。

平成29年9月26日

四国四県町村長・議長大会